都市と建築のブログ

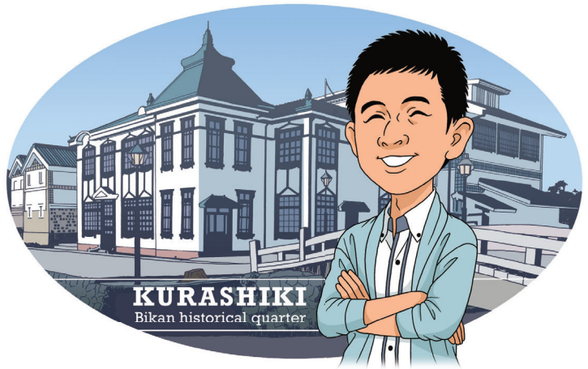
魅力的な都市や建築の紹介とその3Dデジタルシティへの挑戦

Vol.51

倉敷：町人の力

大阪大学大学院准教授　福田 知弘

プロフィール　1971年兵庫県加古川市生まれ。大阪大学准教授，博士（工学）。環境設計情報学が専門。CAADRIA（Computer Aided Architectural Design Research In Asia）国際学会 フェロー、日本建築学会 情報システム技術委員会 幹事、NPO法人もうひとつの旅クラブ 理事など。著書に、VRプレゼンテーションと新しい街づくり（共著）、はじめての環境デザイン学（共著）、夢のVR世紀（監修）など。ふくだぶろーぐは、http://fukudablog.hatenablog.com/



はじめに　福田知弘氏による「都市と建築のブログ」の好評連載の第51回。毎回、福田氏がユーモアを交えて紹介する都市や建築。今回は倉敷の3Dデジタルシティ・モデリングにフォーラムエイトVRサポートグループのスタッフがチャレンジします。どうぞお楽しみください。

1 倉敷市立美術館

「建築家 浦辺鎮太郎の仕事」展へ

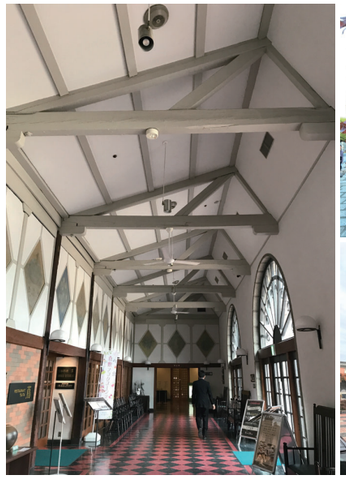
2019年晩秋、展覧会「建築家 浦辺鎮太郎の仕事」を見学に倉敷へ。倉敷駅を降りて、駅前広場に出ると、駅舎と両側に建つビルの表情が、よくある駅前ビルとは明らかに違う。センスある建築家が関わったのであろう、来街者にとって最初に目にする駅前の風景から文化の香りを感じさせてくれる。

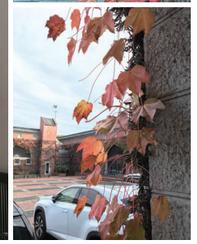
展覧会の関連企画として連続シンポジウム「倉敷の建築文化」が催されており、ちょうど第4回シンポ「モダンとポストモダンの間」の日であった。丹下健三が設計した旧倉敷市庁舎（1960年）であり、その後、浦辺鎮太郎がコンバージョンした現・倉敷市立美術館が会場（1983年、図1）。シンポに使われたホールは、市庁舎時代は議場だったそう（図2）。向かいには、浦辺による倉敷国際ホテル（1963年、図3）。著名な建築の中での建築シンポジウム。

3 倉敷国際ホテル

2 美術館ホール

4 倉敷アイビースクエア





5 アイビースクエア

倉敷アイビースクエア

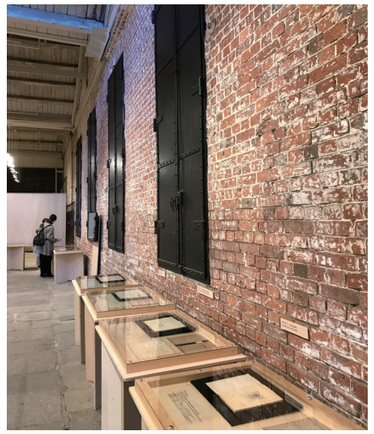
松葉先生の講演を聴いてから、「浦辺鎮太郎の仕事」展覧会へ。会場は、浦辺さんの代表作・倉敷アイビースクエア（図4）。

アイビースクエアは、1889年（明治22年）より操業していた倉敷紡績所（現・クラボウ）の紡績工場跡を宿泊施設などの複合施設へとコンバージョンした施設（1974年）。現在では、古くなった建造物は何でもつぶして建て直すというスクラップ・アンド・ビルドの考え方は改められつつあり、リノベーションやコンバージョンは専門家でなくとも知られるようになった。が、1970年代は、古いものは新しく作り変えてしまおうという考え方は当たり前。そのような中で、工場を宿泊施設へと生まれ変わらせるコンバージョンの考え方と実践は先駆的だった（図5）。

展覧会では、著名な作品のパネル展示の他、浦辺さんが仕事で使われていた数々の手帳やスケッチ、一丁シャンゼリゼ計画や大阪万博1970などアンビルトのプロジェクト、展覧会に併せて学生さんが制作した数々の建築模型など、非常に興味深かった。日ごろ見慣れた、千里阪急ホテルも浦辺さんの仕事だった（図6）。

吉備の穴海

古代の倉敷を眺めて驚く。当時の倉敷は、吉備の穴海（きびのあなうみ）と呼ばれる内海にあり、倉敷の中心部にある標高36mの鶴形山（阿智神社）は海に浮かぶ島であった（図7）。鶴形山の麓は現在、電柱の地中化や道路の美装化が進められて、昔のたたずまいに戻りつつあり落ち着いた時間が流れているのだが（図8）、いきなり岩肌が



6「浦辺鎮太郎の仕事」展

7 美観地区より鶴形山

8 本町通り付近